

しますので、買うのがたいへんです。兼業農家けんぎょうの人は、そういう大型の機械を買ってそろえることは大へんです。そのために、よその人からも田んぼを作るようにたのまれて、その人の田んぼも作っています。

また、JAでも、安くておいしい作物を作るために、それぞれ作っている作物ごとに部会をつくり、情報交かんじょうほうこうをしています。その中から、直播栽培ちよくは（苗を植えるのではなく、種もみをじかに田んぼにまいて育てるやり方）という新しい技術を用いたりしています。農業のおもしろさは、何といたっても育てる喜びしゅうかく、収穫の喜びだと思えます。

このように、農家のくらしは良くなりましたが、このまま農業を続けていくには、いくつかのだいじな問題があります。どんなことがだいじなのか、これから学習していきましょう。

2. 農業がかかえる問題

(1) 後継者こうけいしゃが不足している

食料（食べ物とするもの）を作る農業という仕事は、人間が生きていくためにはなくてはならない仕事です。日本で農業をしている人はおよそ414万人（平成7年）いますが、その40パーセント以上は65歳より上のお年寄りです。農業を続けていくには、後を継ぐ若い人がいなければなりません。新しく農業の仕事につく若い人（39歳以下の人）は、全国でわずかに6,300人（平成6年）しかいません。

わたしたちの町や村ではどうなっているのでしょうか。

次のページのグラフは、わたしたちの町や村の農業の仕事につく人で、年齢別ねんれいにどのくらいの割合かを表したものです。どんなことがわかりますか。もし、農業をする人がだれもいなくなってしまうたら、どんなことが起こるでしょう。